

II 講 話 工業教育について

文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 池守 滋

先ほどのあいさつの中でもふれましたが、2年後に静岡県で技能五輪が開催されますが、この世界大会は2年毎に行われ参加資格は22歳までです。工業高校から是非、選手を出していただきたい。今年のヘルシンキ大会では、日本選手団36人のうち14人が工業高校出身で、デンソーのチームには愛知県の刈谷工業高校、メカトロニクス分野では日産自動車から福島県の平工業高校の卒業生が出場し、平工業高校出身の選手は金メダルに輝いています。愛知県は教育特区を利用して盛んに技能教育に力をいれていただいている。日本で行われることもありまして、一人でも多く工業高校出身の選手を送り出していただいて、メダリストになっていただきたい。本研究大会のテーマにもありますように子供達に夢と希望を与えてください。

1 教育について

国の動きについて申しますと、学習指導要領の改訂が始まっております。始まっているという言葉は言い過ぎですが、今年の2月中央教育審議会に対してその方向性について文部科学大臣が諮問しました。今何が問題になっているのか。そこに注目していただきたい。それといつまでに結論がでるのか。中央教育審議会の下に教育課程部会があり、その下に多くの専門部会があり、この秋までにその方向性がでます。夏までに方向案がでます。詳しくは文部科学省の審議会というホームページを是非ご覧ください。

さらに、義務教育の国庫負担金の問題があり、国が給料の半分を負担することは同じですが、今までは給料にしか使えなかったが、一般財源化されて給料以外にも使えるようになります。このことが中央教育審議会になげかけられていまして、学習指導要領と同じように秋までに結論を出すようになっていきます。ふたつの大きな問題ですから、内容も時期も

極めて流動的ではあります。

2 工業教育はどうするのか

義務教育では学習指導要領の改訂については進行中ですが、高等学校では現在未だ静観中であります。ここには工業の先生がいらっしゃいますが、工業の科目については、大きな方向性が出てから動き出すという形になる。来年といえますか、年明け以降になるのではないかと思います。確かに大きな動きが



出ているのですが、新指導要領で学び初めてやっと3年目です。変えてよかったかどうか、そういうことも立証されていません。3年間学ばせてどうであったかということでもあります。そういうことが出てこない内に変えてしまう。義務教育に関しては出ております。高等学校は3年間やってないのに、もう変える話になっている。今まで学習指導要領は10年に一度の改訂だが、今3年目で成果も出ていない状況で変えてしまうことになる。

ただ、工業に関していうと、社会の変化が激しく、特に産業界はもう大きく変わっているわけですから、現実的に対応できるのではないのでしょうか。工業と

してはどうするか。変える必要があるのかないのか。こここのところから論議しなくてはなりません。ここで先生方をお願いしたいのは、現状をしっかりとらえなくてはならないことです。少子化で工業高校はどうなっていくか。当然、各都道府県は、複数学科の学級減、学科減、学校がもたなければ近隣の学校と統合して学校再編を行い、どんな学科の教育を推進するかを検討している。統合していくにしても、それがいいかどうか、その場合どんな学科にするかそここのところが問われることになる。

3 現状を捉える

今、よく言われることとして、学校二極化問題があります。学力向上に一生懸命やっている学校とそうでもない学校というような評価がなされる傾向があります。先生方の意欲としてはどうでしょうか。資質の向上、意欲の問題これも二極化していないでしょうか。本日の研究大会のような勉強会、研修会が今まで公務員としては、ただでやる、出張で行く、これが当たり前ではなかったでしょうか。国の方も研修は勤務時間終了後の6時以降で、時間外に行うことにしている。これが原則です。民間の方は土日に来る。自分の資質を高めるのだから当たり前である。民間では勤務時間の中では仕事をする。能力を高めるには仕方がないのではないかと。さらにはお金がかかる。これは、民間ではキャリアアップにつながり、給料アップになる。先生方としては、常に研修をしなければならぬというのが努めである。今後二極化ということで、自分に投資する人とならない人との差が大きくなるのではないかと。学科間でも然りである。現学習指導要領では科目を統合したり廃止して、75科目から60科目にしてあります。実際に教えてみて、現場の声を是非お聞かせいただきたい。今は学習指導要領を改訂せざるをえない方向性が出ている。そこまでやるかはわからない。

4 教師として

資質の問題として、教師としてどうあるべきか。酒を飲んで他の先生に見られるのは調子が悪い。当然わきまえなくてはならない。

逆に先生方としては学校が、生徒がどうあって欲しいのか。教師として手間がかからないことが生徒

の理想像でしょうか。現実問題として、大変なことはよくわかりますが、大変な生徒を高校3年間で少しでも引き上げてやる。この学校にきてよかったなあとそう思わせるのが教師としての努めではないでしょうか。子供や親が学校に求めているのは何でしょうか。社会が学校に求めているものと少し離れているのではないのでしょうか。学校としては社会に役立つ生徒を育てたい。今どうすべきかということを確認していただきたい。

そして、何をしたかだけでなくそれをPRすべきでありましょう。世の中が変わってしまいました。教育の成果はすぐには出ません。何年か先になる。先生方には足元をきちっと見て将来を見渡す目をもって欲しい。そうでないと、中学校や地域社会と乖離した学校になってしまう。工業高校にとって産業界の動向まで見通すのは無理だが、常に少なくとも3年先を見通す必要がある。

現在国では、目指せスペシャリストとしてスーパー専門高校を3校指定しました。是非これに手を挙げて欲しい。素晴らしい企画書を出してください。この地域からも沢山出してもらっていますが、先ず、企画書ありきでございます。内容が似通っておりまして、地震に関するもの、レスキューロボットなどのロボットに関するものが多い。しかし、既に出ておりますので市場調査をしっかりといただければと思います。研究開発校は、札幌琴似工業高校、米沢工業高校、岐阜工業高校と3校指定していますので、是非何をしているか見て下さい。

研究開発校は何をやるのか。新しい科目を作る。次の学習指導要領に取り入れられるような内容をやりたい。これには当然予算がついておりまして数百万円の仕事になります。指定を受けることができる学校の体制を作っていただきたい。先生方の資質向上として個々にいろいろな研修をするのも結構ですが、また研究開発を仕事として行うことは大変ですが、先生方の勉強になるわけですので是非受けていただきたい。そして全国に発信していただければと思います。そう意味では私学は極めて積極的であります。